

 **PGM 世界ジュニアゴルフ選手権
日本代表選抜大会**

沖縄予選 沖縄国際 GC (沖縄県)

予選大会結果のお知らせ

<PGM 世界ジュニアゴルフ選手権 日本代表選抜大会 沖縄予選>

- ◇2016年1月5日(火) 天候: 晴れ
- ◇沖縄・沖縄国際 GC (15-17歳男子 6904ヤード、パー72ほかカテゴリー別)
- ◇出場38人

<沖縄予選 概況>

IMG A世界ジュニアゴルフ選手権の日本代表を目指す予選がスタートした。15-17歳の部では、大阪から挑戦した西脇まあく(大阪・興国高1年)が1番をダブルボギーとしたが、後半粘って10オーバー82で回り、トップで西日本ブロック決勝大会(4月2、3日、佐賀・若木GC)に進んだ。13-14歳の部男子は、豊里裕士(沖縄・恩納中2年)がバーディーはなかったものの8オーバー80で回り、首位通過。同女子では昨年11-12歳の部でトップ通過した比嘉里緒菜(沖縄・嘉数中1年)が81をマークして2年連続1位で西日本ブロック決勝大会進出を決めた。予選は全国7地区で行われ、今年から決勝は西日本、東日本の2つのブロックに分かれて行われる。

決勝大会進出者は以下の通り。

<沖縄予選 予選結果>

西日本ブロック決勝の進出者は以下の通り。*敬称略

▽15-17歳男子

【1位】西脇まあく(大阪・興国高1年) = 82、【2位】長間絢音(沖縄・興南高1年) = 84

▽13-14歳男子

【1位】豊里裕士(沖縄・恩納中2年) = 80、【2位】井上和馬(東京・立教池袋中1年) = 85、
【3位】青川栄太(沖縄・山内中1年) = 86

▽同女子

【1位】比嘉里緒菜(沖縄・嘉数中1年) = 81、【2位】石原果楓(沖縄・港川中1年) = 83

▽11-12歳男子

【1位】仲榎克希(沖縄・泊小6年) = 85

▽同女子

【1位】賀数心南(沖縄・城岳小5年) = 80、【2位】石原渚裳(沖縄・浦城小5年) = 85

▽9-10歳男子

【1位】神谷健心(沖縄・名護小4年) = 102

▽9-10歳女子

【1位】小潮川せり(沖縄・与那城小4年) = 81、【2位】前里奈々(沖縄・大里南小3年) = 86

▽7-8歳男子

【1位】佐藤ミラー(新潟・中之島小1年) = 96

<沖縄予選 ハイライト1>

◇15—17歳の部男子 ◇沖縄・沖縄国際GC（6904ヤード、パー72）

西脇まあく（大阪・興国高1年）が、苦しみながらも西日本ブロック決勝（4月2、3日、佐賀・若木GC）に進出した。1番でいきなり右にOBをたたき、ダブルボギーでスタートした。「ショットが乱れて、パターもきれいに転がってくれなかった」と、前半は43で折り返した。後半に入って「みんなも（スコアが）悪いだろうからあきらめずにやろうと思いました」と39でこらえ、10オーバー82ながらトップでホールアウトした。この予選に挑戦するのは3回目。大阪在住だが「他の予選の日程を見て、出られるところが沖縄でした」と、世界ジュニアに挑戦したくて沖縄まで来た。昨年末に静岡・浜松で芹澤信雄門下に通じてトレーニングを行い「藤田（寛之）さんと回って勝ったので自信があったんですけど」と、トップにもスコアには不満な様子。「1、2月はまずトレーニングをして体を鍛えて、4月の決勝大会に調子を持っていけるようにしたい」と、世界を思い描いていた。

<沖縄予選 ハイライト2>

◇13—14歳の部男子 ◇沖縄・沖縄国際GC（6904ヤード、パー72）

西日本ブロック決勝（4月2、3日、佐賀・若木GC）へトップ通過を果たした豊里裕士（沖縄・恩納中2年）は、8オーバー80というスコアに「微妙です」と苦笑いした。スタート1番で3メートルのパーパットを沈めて好スタートを切ったが、その後はグリーンの重さにてこずり「アプローチの距離感が合わなかった」と話した。ただ「ドライバーがよかった」のが、大崩れしなかった要因だという。9歳からゴルフを始めて5年。昨年は8月から12月までの沖縄でのジュニア大会に3連勝と、力をつけてきた。ドライバー飛距離も小柄（160センチ、49キロ）ながら250ヤードと伸びている。一昨年に初めてこの予選に挑戦して決勝大会に進んだが、世界ジュニアには進めなかった。「西日本ブロック決勝までに全部を上達させたい」と、意欲を見せていた。

<沖縄予選① ハイライト3>

◇13—14歳の部女子 ◇沖縄・沖縄国際GC（6391ヤード、パー72）

比嘉里緒菜（沖縄・嘉数中1年）が2年連続トップで西日本ブロック決勝（4月2、3日、佐賀・若木GC）に進んだ。「最近ちょっと調子が悪い。アプローチのいい時と悪いときの差が激しくて、スコアが安定しないんです」という。スタート1番で右のバンカーに入れてからショットがままならずダブルボギー。それでも10番で30センチにつけるバーディーを奪うなど9オーバー81にこらえた。昨年は11—12歳の部で、決勝大会では首位に7打差の5位で世界を逃した。「あの時は前日にパターの打点のところに空気が入って膨らんでしまって、急きょパターを買ったのでうまくいかなかった。でも（成績は）まあまあだったので、今年は世界ジュニアに行きたい」と力を込める。西日本ブロック決勝に向けて「100ヤード以内を1パット圏内に寄せられるように練習したい」と、1つ年齢カテゴリーが上がったが、昨年の雪辱を目指す。



写真： 左／西脇まあく（15—17歳の部男子）、中央／豊里裕士（13—14歳の部男子）、
右／比嘉里緒菜（13—14歳の部女子）、写真クレジット：© I J G A 2 0 1 6